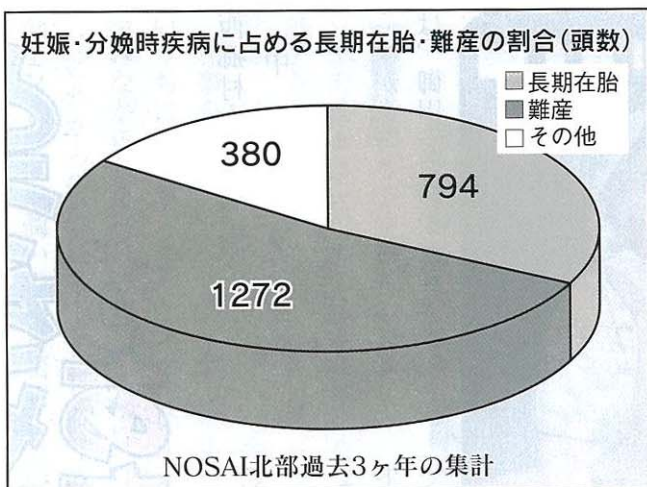


## 『長期在胎』

予定日を過ぎてもお産しない牛についての話です。

妊娠・分娩期の疾患で最も多いのが難産と長期在胎です。この数年、予定日を過ぎてでも分娩しないとの求診が多い傾向が続いています。

今日生まれるか、明日生まれるかとお産を待つのは農家にとって大変なストレスです。



従来、妊娠期間は二百八十五日とされていますが、最近ではこれよりも平均一週間以上伸びているという報告もあります。

種雄牛により分娩が遅れる母牛もいますが、胎児の性別、母牛の年齢や産歴などでは分娩が予定日より遅れるかどうかという事ははっきりしません。

長期在胎が必ず死亡事故につながるという訳ではありませんが、予定日から十四日過ぎてでも分娩しない時は、種付年月日、乳房、乳頭の腫れ具合をよく観察した上で診療所に連絡をしてください。

NOSAI獣医師が加療管理を親切に教えます。日頃から母牛をよく観察し、長期在胎による過大児の難産、畜主の留守中の分娩による事故を予防しましょう。

(小間口獣医)

## 上手な診療の受け方

### ● 往診依頼は

#### 午前九時までに

診療の受付は、午前九時までとなっております。まず、急患を優先に、病状、道順を考慮しながら最も無駄のない往診の順番を決めます。それから、往診する時間を九時すぎには農家の皆さんに連絡できるように努力しています。

(急患の場合を除く)

### ● 依頼のポイント

- ◇ 集落名と氏名はハッキリと
- ◇ 病気の状態をできるだけ詳しく伝える
- ◇ 電話番号もハッキリと

### ● 獣医が来るまでに

- ◇ 家畜共済加入証を準備する
- ◇ 牛を枡場等につないでおく  
(治療の内容によっては、湯の準備をお願いする場合があります)

### ● スムーズな

往診にご協力を

